

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-338955

(43)公開日 平成8年(1996)12月24日

(51)Int.Cl. ^a	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 2 B 25/00			G 0 2 B 25/00	Z
A 4 7 B 23/00			A 4 7 B 23/00	
G 0 2 C 3/04			G 0 2 C 3/04	

審査請求 未請求 請求項の数8 F D (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平7-170305

(22)出願日 平成7年(1995)6月13日

(71)出願人 000109510

テラサキ株式会社

東京都江戸川区興宮町43番地

(72)発明者 寺崎 昌宏

東京都江戸川区東松本2丁目17番20号テラ

サキ株式会社内

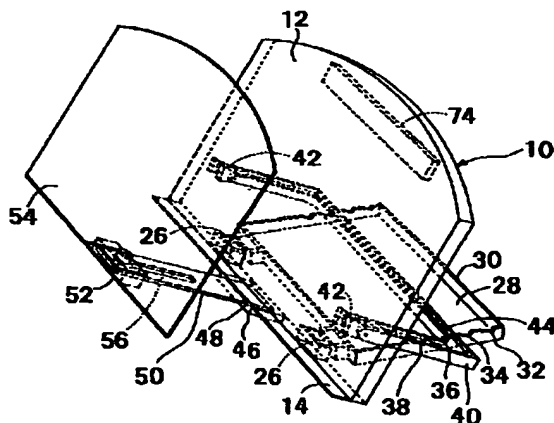
(74)代理人 弁理士 明石 昌毅

(54)【発明の名称】 拡大視書見台

(57)【要約】

【目的】 快適な拡大視による書見が可能な拡大視書見台を提供する。

【構成】 背板部とその下縁部より前方に突き出た棚部とを有し本を背と下縁にて支持する載書板と、載書板を水平面上に後方へ向けて傾斜した姿勢に支持する載書板支持手段と、載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材と、腕部材より下縁中央部を支持され載書板の背板部に平行に配置されたルーベとを有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】背板部と該背板部の下縁部より前方へ突き出た棚部とを有し本等を背と下縁にて支持することができる載書板と、前記載書板を水平面上に後方へ向けて傾斜した姿勢に支持する載書板支持手段と、前記載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材と、前記腕部材により下縁中央部を支持され前記載書板の背板部に平行に配置されたルーベとを有する拡大視書見台。

【請求項2】前記載書板支持手段は前記載書板の下縁部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第一の枢動脚と、前記載書板の背面の高さ方向の中間部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第二の枢動脚とを有し、前記第二の枢動脚の自由端部が前記第一の枢動脚の両端間の一部に係合することにより前記載書板と前記第一及び第二の枢動脚とにより三角形リンク構造を郭定するようにになっている請求項1の拡大視書見台。

【請求項3】前記第一の枢動脚は該第一の枢動脚に対する前記第二の枢動脚の自由端部の係合位置を該第一の枢動脚に沿う複数の異なる位置に特定する手段を有する請求項2の拡大視書見台。

【請求項4】前記第一及び第二の枢動脚は各々前記載書板に対し平行に且つ互いに他に対し平行に折り畳めるようになっている請求項2又は3の拡大視書見台。

【請求項5】前記ルーベの下縁中央部は摺動位置調節手段により前記腕部材にそれに沿って摺動可能に且つ任意の枢動位置に固定可能に装着されている請求項1〜4のいずれかの拡大視書見台。

【請求項6】前記摺動位置調節手段は前記ルーベの下縁中央部より前記腕部材に沿う方向に突き出たラグ部と前記腕部材とを重ね合わせて囲む四辺形環状部材と、前記四辺形環状部材の前記ラグ部上に重なる第一の辺部と前記腕部材とを互いに選択的に締め付けるねじ部材とを有する請求項5の拡大視書見台。

【請求項7】前記腕部材はその長手方向に沿って延在する貫通溝を有し、前記四辺形環状部材は前記第一の辺部にナットブロックを有し又前記第一の辺部に対向する第二の辺部には少なくとも前記ナットブロックに対応する部分にて前記腕部材を露呈させる空隙部が形成されており、前記ねじ部材は前記空隙部を通り且つ前記貫通溝を通して前記ナットブロックに嵌り込まれるねじ軸部と前記貫通溝の周りにて前記腕部材に当接する顎部を有する摘みヘッド部とを有する請求項6の拡大視書見台。

【請求項8】前記腕部材は前記載書板の下縁中央部に形成された対応する差し込み孔内に抜き差し可能に差し込まれている請求項1〜7のいずれかの拡大視書見台。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、本、ノート、一枚のコピーその他の任意に紙面上に表された文字図形等の読取り対象物（以下これらを総称して本等という）を読取り

に適した姿勢に保持すると同時にそれを拡大して読み取ることを可能にする拡大視書見台に係る。

【0002】

【従来の技術】拡大視用のルーベ或いはレンズを用いて本等を拡大して読み取る際にルーベやレンズを手にて捧げ持つ煩わしさを回避すべく、ルーベやレンズをスタンド装置により机上に支持するスタンド型拡大視装置がこれまでに種々提案されている。これら従来のスタンド型拡大視装置は、机上に載置される台座部或いは機の縁を挟んで締め付けられるコ字形クランプより上方へ延びる関節式或いはフレキシブルチューブ式の支柱の上端よりルーベ或いはレンズを斜め下向きに支持する型のものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記の如き所謂スタンド型拡大視装置のうち、支柱の下端を台座部により机上に支持する型のものは、台座部が拡大視しようとする本等と干渉しやすく邪魔になって煩わしいことが多いという問題がある。かかる台座部の前面を斜面とし、そこに本等を置けるようにした構造のものも知られているが、該斜面の傾斜角は、台座部が嵩張ることを避けるため、机上面に対しせいぜい20°〜30°程度迄しか増大できないものであり、かかる斜面上に載置された本等をその紙面に垂直の方向から見ようとすればその角度は机上面に対し70°〜60°でなければならず、そのような大きな角度より台座部上に置かれた本等を見ようとすれば、支柱の上端と目の位置との間に許される距離が極く短くなり、本等の読取りを容易にするに十分な大きさのルーベやレンズを用いることができない。従ってこの型の拡大視装置に於いては、台座部の斜面上に置かれた本等をルーベ或いはレンズを通して直角方向に見ることが困難であるという問題がある。一方、コ字形クランプ装置により支柱の下端を機の縁に固定する型式のスタンド型拡大視装置に於いては、机上には邪魔物が生じないという利点はあるが、その取り付け取り外しは手軽には行えないので、かかる拡大視装置は特定の机に属する専用装置となり、手軽なポータブル装置としては不向きである。

【0004】又上記のいずれの型式の拡大視装置に於いても、人が本等を見るに楽な姿勢、即ち机上面に対し視線を30〜45°の角度にして本等を拡大視しようとするれば、本等を机上に60〜45°をなす角度に手にて保持しなければならないという不便がある。更に又、ルーベ或いはレンズを上方より斜め下向きに支持する従来のスタンド型拡大視装置に於いては、支柱やその先端に設けられた角度調節機構を有するルーベ或いはレンズのための支持装置が常に眼前に位置する障害物となるので、使用者に心理的抑圧感を与える恐れがある。

【0005】本発明は、従来のスタンド型拡大視装置に於ける上記の如き種々の問題に鑑み、これらの問題を生

しない新たな型式の本等を見るための机上用拡大視装置を提供することを課題としている。

【0006】

【課題を解決するための手段】かかる課題を解決するものとして、本発明は、背板部と該背板部の下縁部より前方へ突き出た棚部とを有し本等を背と下縁にて支持することができる載書板と、前記載書板を水平面上に後方へ向けて傾斜した姿勢に支持する載書板支持手段と、前記載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材と、前記腕部材により下縁中央部を支持され前記載書板の背板部に平行に配置されたルーベとを有する拡大視書見台を提案するものである。

【0007】上記の拡大視書見台に於いて、前記載書板支持手段は、前記載書板の下縁部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第一の枢動脚と、前記載書板の背面の高さ方向の中間部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第二の枢動脚とを有し、前記第二の枢動脚の自由端部が前記第一の枢動脚の両端間の一部に係合することにより前記載書板と前記第一及び第二の枢動脚とにより三角形リンクを構成するようになっていてよい。

【0008】前記第一の枢動脚は該第一の枢動脚に対する前記第二の枢動脚の自由端部の係合位置を該第一の枢動脚に沿う複数の異なる位置に特定する手段を有していてよい。

【0009】前記第一及び第二の枢動脚は各々前記載書板に対し平行に且つ互いに他に対し平行に折り畳めるようになっていてよい。

【0010】前記ルーベの下縁中央部は摺動位置調節手段により前記腕部材にそれに沿って摺動可能に且つ任意の枢動位置に固定可能に装着されていてよい。

【0011】前記摺動位置調節手段は前記ルーベの下縁中央部より前記腕部材に沿う方向に突き出たラグ部と前記腕部材とを重ね合わせて囲む四辺形環状部材と、前記四辺形環状部材の前記ラグ部に重なる第一の辺部と前記腕部材とを互いに選択的に締め付けるねじ部材とを有していてよい。

【0012】前記腕部材はその長手方向に沿って延在する貫通溝を有し、前記四辺形環状部材は前記第一の辺部にナットブロックを有し又前記第一の辺部に対向する第二の辺部には少なくとも前記ナットブロックに対応する部分にて前記腕部材を露呈させる空隙部が形成されており、前記ねじ部材は前記空隙部を通り且つ前記貫通溝を通して前記ナットブロックに嵌り込まれるねじ軸部と前記貫通溝の周りにて前記腕部材に当接する顎部を有する摘みヘッド部とを有していてよい。

【0013】前記腕部材は前記載書板の下縁中央部に形成された対応する差し込み孔内に抜き差し可能に差し込まれていてよい。

【0014】

【発明の作用及び効果】上記の如く拡大視装置が、背板

部と該背板部の下縁部より前方へ突き出た棚部とを有し本等を背と下縁にて支持することができる載書板と、前記載書板を水平面上に後方へ向けて傾斜した姿勢に支持する載書板支持手段とから構成される所謂書見台の構造を有し、かかる書見台の構造に加えて、その載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材によりルーベがその下縁中央部にて支持され背板部に平行に配置された構造とされることにより、拡大視されるべき本等は机上面に対し60〜45°の如き最も見やすい角度に容易に支持される。この場合かかる書見台構造部は、従来のスタンド型拡大視装置に於いてルーベ或いはレンズを支持する目的のためのものであって本等を最も見やすい姿勢に支持することに関しては殆ど或いは全く機能しないものとは異なり、本等を最も見やすい姿勢に支持するという書見台本来の機能を行うものであるから、この機能に適合した構造、形状を有し、使用者にとってこれが煩わしく感じられることはない。

【0015】又本発明の拡大視書見台に於いては、ルーベは載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材によりその下縁中央部を支持された状態で載書板の背板部に平行に配置されるので、ルーベを支持する腕部材は載書板上に置かれた本等より下の机上面に近い位置にあり、本等より上は何らの障害物のない開かれた視野となり、本等を見る者に対しその眼前に迫る不快な障害物は生じない。又腕部材は常に載書板の背板部即ちその上に置かれた本等の紙面に対し垂直に延在するので、本等の紙面を垂直方向に見る視線に対しては極く僅かの視野面積しか呈せず、この点からも腕部材の存在は本等を見る人に殆ど邪魔物としての対象をなさない。

【0016】勿論かかる拡大視書見台は、単に机上に単に載置して使用できるので、必要に応じて任意に机上に設置され或いは、不要時には取り除かれる装置として使用できる。

【0017】又かかる拡大視書見台に於ける前記載書板支持手段が、載書板の下縁部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第一の枢動脚と、載書板の背面の高さ方向の中間部に枢着され該載書板の背面領域にて枢動する第二の枢動脚とを有し、前記第二の枢動脚の自由端部が前記第一の枢動脚の両端間の一部に係合することにより載書板とこれら第一及び第二の枢動脚とにより三角形リンク構造を郭定するように構成されているときには、載書板の背面領域に二つの枢動脚を枢動式に設けるといって極めて簡単な構成により、載書板を水平面上に後方へ向けて傾斜した姿勢に支持する載書板支持手段が得られる。

【0018】更に又、上記の如き載書板支持手段の構成に於いて、前記第一の枢動脚が該第一の枢動脚に対する前記第二の枢動脚の自由端部の係合位置を該第一の枢動脚に沿う複数の異なる位置に特定する手段を有するときには、該第一の枢動脚に対する第二の枢動脚の自由端部

5

の係合位置を変更することにより、水平面上に置かれた載書板の後方への傾斜角を複数の異なる角度の任意の一つに切り換え設定することができる。

【0019】更に又、前記第一及び第二の枢動脚が各々載書板に対し平行に且つ互いに他に対し平行に折り畳めるようになっており、このように第一及び第二の枢動脚を折り畳むことにより、載書板支持手段は載書板に僅かの厚みを加える程度に状態に格納され、折り畳み状態での拡大視書見台の取り扱いが極めて容易となる。

【0020】更に又、ルーベの下縁中央部が摺動位置調節手段により前記腕部材にそれに沿って摺動可能に且つ任意の摺動位置に固定可能に装着されているときには、かかる摺動位置調節手段を操作することにより、載書板に対するルーベの隔置距離を容易に調節することができ、ルーベによる拡大視の拡大率を容易に調節することができる。

【0021】前記摺動位置調節手段が、ルーベの下縁中央部より前記腕部材に沿う方向に突き出たラグ部と前記腕部材とを重ね合わせて囲む四辺形環状部材と、該四辺形環状部材の前記ラグ部と前記腕部材との重ね合わせて囲む四辺形環状部材と、前記四辺形環状部材の前記ラグ部上に重なる第一の辺部と前記腕部材とを互いに選択的に締め付けるねじ部材とを有するときには、かかるねじ部材を緩めた状態でルーベを前記腕部材に沿って任意の位置へ摺動させ、その位置で該ねじ部材を締め付ける要領にて、ルーベによる拡大率を容易に調節することができる。

【0022】この場合、前記腕部材はその長手方向に沿って延在する貫通溝を有し、前記四辺形環状部材は前記第一の辺部にナットブロックを有し又前記第一の辺部に対向する第二の辺部には少なくとも前記ナットブロックに対応する部分にて前記腕部材を露呈させる空隙部が形成されており、前記ねじ部材は前記空隙部を通り且つ前記貫通溝を通して前記ナットブロックにねじ込まれるねじ軸部と前記貫通溝の周りにて前記腕部材に当接する頸部を有する摘みヘッド部とを有するように構成されてよい。

【0023】載書板の下縁中央部より前方へ突き出る前記腕部材が、載書板の下縁中央部に形成された対応する差し込み孔内に抜き差し可能に差し込まれた状態に取り付けられているときには、拡大視書見台の格納に当たって載書板より前記腕部材を取り外すことにより、拡大視書見台は全てが実質的に扁平な構造の部材に分解され、コンパクトな形態への格納が可能となる。

【0024】

【実施例】以下に添付の図を参照して、本発明を実施例について詳細に説明する。

【0025】図1は本発明による拡大視書見台の一つの実施例の一つの使用状態にて示す斜視図であり、図2は図1に示されている拡大視書見台の載書板と、その背面

6

部に設けられた枢動脚よりなる載書板支持手段とを、枢動脚が折り畳まれた状態にて示す斜視図である。これらの図に於いて10は載書板であり、本等の背を支持する背板部12と本等の下縁を支持する棚部14とを有している。図示の実施例に於いては、載書板10は背板部12の要部を構成する比較的薄い板部16とその周縁より背面側へ向けて突き出た縁取り部18とが一体となった一辺が円弧状の略四辺形の板部材であり、プラスチック材の射出成形により作られるに便なる構造を有している。尚棚部14も又かかる背板部12と一体に形成されている。載書板10の裏面には棚部14のある下縁に沿って隔置された二か所にブロック状の台座部20が一体に形成されている。これは以下に説明される通り載書板支持手段を構成する第一の枢動脚を枢着するための蝶番の片側を固定するためのものである。

【0026】載書板10の背面領域には、全体として長方形の板状をなす第一の枢動脚22が、その一縁に沿って形成された一对の枢着部24にて、上述の載書板10に設けられた台座部20に対し、両者間に介装された一对の蝶番26により枢動可能に装着されている。これら一对の蝶番の枢動軸線は、載書板の背面に沿ってその周縁に延在する上述の縁取り部18の内の載書板の下縁に沿って延在する部分の縁に近い位置に沿って配置されており、かかる枢軸を中心として、第一の枢動脚22は、図1に示されている如き載書板10に対し開いた位置と、図2に示されている如き載書板10の背面に平行に重ね合わされた折り畳み位置との間で枢動し得るようになっている。第一の枢動脚22は、長方形の薄い板状部28と、その周縁を縁取る縁取り部30とを備えており、この縁取り部30には以下に説明される要領にて第二の枢動脚の自由端部を係合させる切欠き部32、34、36、38がその両側に沿うようにそれぞれ対をなして形成されている。

【0027】上記の第二の枢動脚は40にて示されている部材であり、これはU字形の部材であり、その一对の端部にて一对のピボット式の枢着装置42により載書板の背面の高さ方向に於ける中間部に枢着されており、図1にて示されている如く載書板10の背面より引き起こされた位置と、図2に示されている如く載書板10の背面上に重ね合わされた位置との間で、載書板の背面領域にて枢動するようになっている。図示の実施例に於いては、第二の枢動脚40は平面図的に見ればU字形の部材であるが、その一对の端部を載書板10の背面に枢着する一对の枢着装置42の枢軸方向にこの枢動脚40を見れば、これはその枢着部と反対の側に自由端を有する一つの枢動脚部材であり、かかる枢着端と自由端とを有する枢動脚としての構成がこの第二の枢動脚40の機能的観点からの構成である。そしてかかる枢動脚としての構成の自由端部に相当する部分であって、U字形平面構造の底部に相当する部分44は第一の枢動脚22の縁取り

部30に形成された上述の切欠き部32~38のいずれかに係合し得ようになっており、この枢動脚40の自由端部が枢動脚22の切欠き部のいずれかに係合した状態で、載書板10と第一及び第二の枢動脚22及び40は、両腕部材の枢着部に於ける枢軸の延在方向に見た拡大視書見台の側面図で見て、一つの三角形リンク構造を郭定するようになっている。そして第二の枢動脚40の自由端部を第一の枢動脚22に於ける切欠き部32~38のいずれに係合させるかによって、上記の三角形リンク構造の形状が変化し、第一の枢動脚22を机上面の如き水平面上に載置したとき、載書板10が該水平面に対し後方へ向けて傾斜した姿勢に支持されるとき傾斜角が、4つの異なる傾斜角のいずれかに設定されるようになっている。

【0028】載書板10の下縁中央部にはブロック状の厚肉部46が形成されており、この厚肉部に形成された孔48に根元部を差し込まれた状態にて、載書板の下縁中央部より前方へ突き出た腕部材50が設けられている。腕部材50は薄くて細長い帯状の形状によっても必要な強度を有するよう金属製の帯材より構成されているのが好ましい。腕部材50の先端部には以下に詳細に説明される摺動位置調節手段52によりルーベ54がその下縁中央部にて支持された状態に取り付けられている。腕部材50にはその中心部に長手方向に沿って貫通溝56が形成されている。

【0029】ルーベ54を腕部材50にそれに沿って摺動可能に取り付ける上述の摺動位置調節手段の詳細は、図3及び図4に示されている。ここで図4は、図3に於ける切断線ⅠⅤ-ⅠⅤによる断面図である。ルーベ54の下縁中央部にはその主要部に対し直角をなして腕部材50に沿う方向に突き出たラグ部58が一体に形成されており、このラグ部を腕部材50上に整合させ重ね合わせた状態にてこれら両者を囲む四辺形環状部材60が設けられている。この四辺形環状部材60の四辺のうちのルーベのラグ部58上に重なる第一の辺部62には、その中央部であって腕部材50に設けられた貫通溝56に整合する位置に雄ねじを備えたナットブロック64が設けられている。このナットブロックのねじ孔には、四辺形環状部材60の辺部62に対向する部分に互いに隔置して設けられた一対の第二の辺部66の間の空隙内に嵌入する摘みヘッド部68を有するねじのねじ軸部70が腕部材50の貫通溝56及びラグ部58の中央部にあけられた孔59を経て振じ込まれており、このねじが振じ込み方向に回されたとき摘みヘッド部68の頸部72が貫通溝56周縁にて腕部材50に当接してこれをルーベのラグ部58と共にナットブロック64へ向けて押し付けることにより、ラグ部58にてルーベ54を腕部材60に固定するようになっている。従って又摘みヘッド部68を持ってねじを緩める方向に回し、ラグ部58が腕部材50に押し付けられた状態を解除すれば、ラグ部5

8は摺動位置調節手段52と共にねじ軸70が貫通溝56に沿う状態に腕部材50に沿って自由に移動でき、これによって載書板10に対しルーベ54を隔置する距離が貫通溝56の延在長さの範囲内にて自由に調節され、又任意の調節位置にて摘みヘッド部68をねじ締め付け方向に回すことによりルーベはその調節位置に安定して保持される。

【0030】図示の拡大視書見台を格納のために分解するときには、ねじ軸70を戻し方向に回転させてナットブロック64より外し、更にこれをラグ部58の孔59より引き抜けば、ラグ部58は四辺形環状部材60より容易に引き抜けるので、これによってルーベ54はラグ部58を伴ったルーベのみの状態に分解される。又ねじ軸70が取り外されることにより四辺形環状部材60も又腕部材50より取り外される。更に必要ならば腕部材50を載書板10の下縁中央部に設けられた差し込み孔48より引き抜けば、腕部材50も又そのみの状態に分解される。残る載書板10とそれに設けられた第一の枢動脚22と第二の枢動脚40とよりなる載書板支持手段は、上述の如く図2に示されている状態に折り畳まれる。かくして図示の拡大視書見台は全体として扁平な部材の集まりとなり、全体として扁平でコンパクトな形状に纏められる。

【0031】図示の拡大視書見台に於いて、第二の枢動脚40の自由端部が第一の枢動脚22に於ける切欠き部のうち36或いは38の如く枢動脚22の枢着点に近い部分にある切欠き部に係合され、載書板10が水平面に対し比較的大きい角度に設定される使用状態では、載書板上に置かれる本等の重さが大いときには載書板が平衡を失って手前に倒れる恐れがある場合がある。そのような設計条件のときには、使用状態に於ける拡大視書見台の安定度を増すため、載書板10の裏面に74にて示されている如き枠が形成され、この枠に錘り76が嵌め込まれるように構成されてよい。

【0032】以上に於ては本発明を一つの実施例について詳細に説明したが、図示の実施例について本発明の範囲内にて種々の実施例が可能であることは当業者にとって明らかであろう。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明による拡大視書見台の一つの実施例を一つの使用状態にて示す斜視図。

【図2】図1に示されている拡大視書見台に於ける載書板とその背面に設けられた載書板支持手段とを該載書板支持手段が折り畳まれた状態にて示す斜視図。

【図3】図1に示されている拡大視書見台に於けるルーベのための摺動位置調節手段の構造を示す平面図。

【図4】図3に於ける切断線ⅠⅤ-ⅠⅤによる断面図。

【符号の説明】

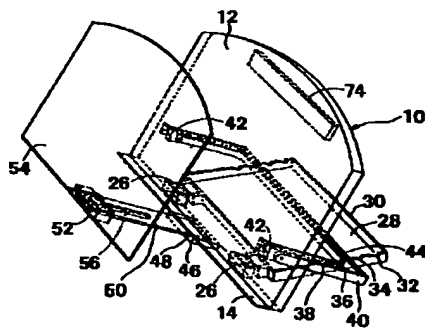
10…載書板

12…載書板の背板部

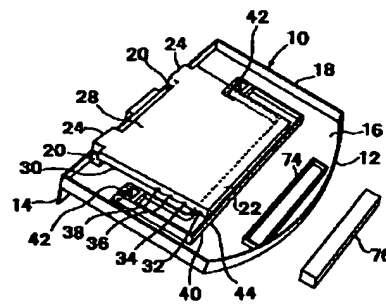
- 14…載書板の棚部
- 16…背板部の板部
- 18…背板部の縁取り部
- 20…螺番取り付け部
- 22…第一の枢動脚
- 24…螺番取り付け部
- 26…螺番
- 28…第一の枢動脚の板部
- 30…第一の枢動脚の縁取り部
- 32, 34, 36, 38…切欠き部
- 40…第二の枢動脚
- 42…第二の枢動脚の枢動部
- 44…第二の枢動脚の自由端部
- 46…載書板の下端中央部の補強部
- 48…腕部材差し込み孔

- 50…腕部材
- 52…摺動位置調節手段
- 54…ルーペ
- 56…腕部材の貫通溝
- 58…ルーペのラグ部
- 59…ラグ部の孔
- 60…四辺形環状部材
- 62…四辺形環状部材の第一の辺部
- 64…ナットブロック
- 66…四辺形環状部材の第二の辺部
- 68…摘みヘッド部
- 70…ねじ軸
- 72…摘みヘッド部の頸部
- 74…枠
- 76…錘り

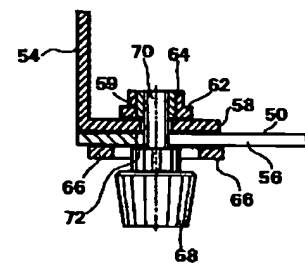
【図1】



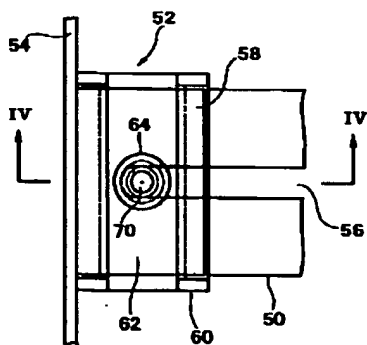
【図2】



【図4】



【図3】



DERWENT-ACC-NO: 1997-104845

DERWENT-WEEK: 199710

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Magnification reading bookrest stand for desk-work - has
magnifying glass fixed to arm part extending from lower
edge central part of backboard and arranged parallel to
backboard

PATENT-ASSIGNEE: TERASAKI KK[TERAN]

PRIORITY-DATA: 1995JP-0170305 (June 13, 1995)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 08338955 A	December 24, 1996	N/A	006	G02B 025/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 08338955A	N/A	1995JP-0170305	June 13, 1995

INT-CL (IPC): A47B023/00, G02B025/00 , G02C003/04

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 08338955A

BASIC-ABSTRACT:

The stand (10) consists of a shelf part (14) formed projecting forward from the lower edge of a backboard (12). The lower edge and back part of the book are supported in the shelf part and the back board respectively. A support mechanism is provided to support the book at a posture of inclination to the rear side in the horizontal plane. An arm part (50) is provided projecting forward from the lower edge central part of the backboard. A magnifying glass (54) is fixed at the lower edge central part to the extended side of the arm part through a sliding centering control fixture (52).

The magnifying glass is positioned parallel to the backboard. The magnified view through the magnifying glass is supported at an angle between 45 to 60 degrees compared with the desk upper surface. The arm part is positioned near the desk upper surface and attains the open view position with an equal twist to the bookrest. The support mechanism of the book is constituted by a first

pivotal movement leg with a board part (28) and a framing part (30). A second pivotal movement leg (40) is connected to the first leg to form a triangular link structure.

USE/ADVANTAGE - For magnified reading of target object and character figure. Supports magnifying glass or lens above upper edge of articulated or flexible tube type prop. Avoids obstacles to view through magnifying glass. Facilitates attachment to desk whenever required. Facilitates adjustment of inclination angle of book. Facilitates folding and expansion of pivotal movement legs. Facilitates adjustment of magnification. Facilitates folding bookrest flat into compact structure for storing.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/4

TITLE-TERMS: MAGNIFY READ STAND DESK WORK MAGNIFY GLASS FIX ARM PART EXTEND
LOWER EDGE CENTRAL PART ARRANGE PARALLEL

DERWENT-CLASS: P25 P81

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N1997-086666